

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	産業建設常任委員会		会議場所 全員協議会室
			担当職員 佐藤
日 時	令和3年10月26日(火曜日)		開 議 午後 1 時 30 分
			閉 議 午後 3 時 37 分
出席委員	◎赤坂、○奥野、田中、小川、藤本、木曾、菱田		
出席理事者	【産業観光部】由良部長 [商工観光課]三宅課長、松浦観光振興係長		
出席事務局	山内事務局長、佐藤主任		
傍聴者	市民1名	報道関係者0名	議員0名

会 議 の 概 要

13 : 30

1 開議（赤坂委員長あいさつ）

[事務局主任より日程説明]

2 案件

[産業観光部入室]

[産業観光部長あいさつ]

（１）亀岡市観光協会の事業内容の見直しと改善策について （商工観光課との意見交換会）

[商工観光課長 説明]

＜商工観光課長＞

先日の決算特別委員会及び事務事業評価において、指摘を受けている観光推進経費の中の亀岡市観光協会が関わる事業経費等について、亀岡市観光協会と協議を進めてきたところである。今回の指摘を受けて、亀岡市観光協会から以下の４つについて方向性が示された。

一つ目が、事業全体の再点検と整理の検討である。現在実施している継続事業について、費用対効果と効率化の観点で全て見直しを行い、令和４年度当初予算の立案を行っていく。

二つ目は、人員の効果的・効率的な配置等整理の検討である。プロパー職員については、観光亀岡を担える人材育成を目的に、中・長期的に、各事業や観光案内、総務事務等を順次経験させ、スキルを高め成長できる体制を整えていく。また、観光案内スタッフについては、専門人材として、日頃から観光知識の習得や情報把握に努めていき、この知識やノウハウを観光誘客に活用できるよう、すでに取り組んでいるＳＮＳでの情報発信をより強化するなど観光客の旅前・旅中行動につなげてい

く。業務の再編を行い、観光案内業務のスタッフに事務補助業務を兼任させ、マルチで仕事がこなせるような効果的なスタッフ・経費の活用に努めていく。

三つ目は、関係機関との連携強化である。森の京都DMO等関係機関と情報共有を常に図り、情報の提供だけではなく、情報を基に市内周遊のコンテンツを考え誘客に努める。

四つ目は、実施事業の検討である。観光亀岡の目指す方向を関係機関と共有し、観光関連事業者が求める亀岡市観光協会のあるべき姿を確認し、亀岡市観光協会だからこそできる新たな事業を企画・提案し、実施していく。また、専門人材の配置やICT等の新たな技術を導入し、効果が最大限発揮できるような手法を見出していく。収益事業であるかめまるマートについても、戦力を整え拡充し、補助金に依存しない事業運営を目指す。事業全体で、費用対効果の低い事業については、手法の見直しや廃止を検討し、収益力の向上を目指す。と亀岡市観光協会から報告を受けている。

これらを踏まえて、亀岡市としてもこれからの観光を見据え、亀岡市観光協会と連携を図り、観光PRや観光地整備、誘客コンテンツ造成等亀岡を楽しんでもらえるような取組や整備をしていく。亀岡市としても、亀岡市観光協会の考えを踏まえ、事業及び予算構築全般を見直そうと考えている。事業については、情報発信ということで、例えば、JR亀岡駅等の案内表示の充実や案内窓口については、職員のスキルの向上とマルチでの勤務体制の構築、コロナ禍において、ウィズ・アフターコロナに向けた観光戦略や商品開発をしていきたいと考えている。予算についても、予算経費の整理を全体的にしていく。これまでは、地方創生交付金を取るために、予算が細かくなっていたので、その辺りの事業内容を精査する中で、予算編成の見直しを行う。国や府の補助金を活用していくことは当然だが、一定予算についても整理する。亀岡市観光協会の体制についても、余剰人員を解雇し、繁忙期にはまた確保するような形で対応していく。専門人材の確保について、新たな今後の観光を考えると、いろいろなコンテンツの作成も必要だと考えている。例えば、旅行業務の取扱管理者の資格を持っているような人を専門的人材として、亀岡市観光協会で力を発揮していただければと思う。今後観光戦略を考えていくが、特にコロナ後の観光を見据えて考えていく必要があると思っている。以前のような、インバウンドの観光客を期待するのは難しく、戻って来るまでには時間がかかる状況であると考えている。このような状況であるからこそ、発想を変えて、持続的な観光を考えていく必要があると思っている。人が押し寄せる数の観光ではなく、魅力的な在来コンテンツ等高付加価値化のサービスを提供することで、宿泊数を伸ばしたり、消費単価を上げるような仕組みをつくる等、質の観光が重要であると考えている。質の観光イコールリピーターの増進や滞在、消費の増進を持続的な観光としてブランディングしていく必要があり、専門的な職員も必要不可欠であると考えている。これらを踏まえ、事業計画・予算を検討していくが、本日の意見交換会で、委員各位からも御意見・御提案をいただければと思うので、よろしくお願いします。

13:43

[意見交換]

<菱田委員>

課長の説明で「観光戦略が必要だ」と言われたが、この前の事務事業評価の中で、私もその点について「しっかりとした戦略の中でやっていくべきである」と申し上げた。その戦略をどのような形で、いつ頃までに仕上げていくのか。

<商工観光課長>

コンサルタントを入れて、観光戦略をつくっていく方法もあるかと思うが、コロナ後の状況やコンテンツを見る中で、来年4月以降に開業する川の駅・亀岡水辺公園を一つの切り口として、教育旅行をターゲットにしていこうとしている。川の駅・亀岡水辺公園で環境や自然体験などの学習をしてもらうとともに、市内の職人や、民泊・農泊などの大手旅行社が商品として取り扱わない部分をうまく組み合わせて、亀岡市が持つポテンシャルをつなげて周遊に努めたいと考えている。それを、例えば、Harvest Journey Kameokaという組織があつて、そこに、職人などが所属しているが、その辺りとタイアップして、大手旅行会社が取り扱わないコンテンツづくりについて、亀岡市観光協会を中心にやっていければと思う。

<菱田委員>

お聞きしていたら、戦略と戦術が混同していると感じる。共感したのは、コンサルタントを入れないことである。コンサルタントは、上手に使えばいろいろ発信ができるが、下手すると言いきりになってしまい、かつての昭和の終わりごろの話だが、「金太郎飴の町づくり」という話があつて、どこを切っても金太郎が出てくる。それは北海道でも沖縄県でも同じ町づくりになってしまうということである。戦略をつくるには、地元の目と全く亀岡市のことを知らない他人の目と、少しだけ亀岡市のことを知っている人の目がある中で、地域のよさを引き出して、亀岡市にとって、どのような戦略がよいのか、どのような戦術がよいのかをつくっていく必要があると思う。当然、亀岡市観光協会や各種団体にも出ていただいて、どこかの会議でもあるように、偉い人ばかり出てきて何もできず、結局事務局が走り回ってなかなかうまくできないということもあるので、工夫していただきたい。いずれにしても、戦略がなければと思うがどうか。

<商工観光課長>

三大観光はほぼ周知度があつて、エージェントがもう商品化しているが、そのような目線ではなく、地元のもっとよいところ、コロナになって屋外での観光やレジャー的なものが人気を集めている。今持っている亀岡市の一つ一つを線でつないで商品化していく。観光だけではなく地域の商業振興を踏まえて、大手の旅行会社が取り扱わない部分で商品化することが大事であると思う。そのような戦略を順次立てていきたいと考えている。

<菱田委員>

いろいろな人の意見を聞きながら、PDCAサイクルで積み上げていって、いかに他にないものを作り上げるかが大事であるので、そのような方向で取り組んでもらいたい。

<木曾委員>

予算や事業の見直し等、来年度予算に反映したいという思いを言っていたが、それに尽きると思う。今までのように、昨年度予算をつけたから今年度も予算をつけるということではなく、必要なものを必要な部分に予算を充てていく。そこには戦略的なものが生まれてくると思う。課長が言っていたとおりでと思うので、まさしく実行して、それを戦略にしていればうまく進むと思う。楠会長が「亀岡市が予算をつけてくれるから事業をしている」と言っていたので、せっかく予算をつけてもお互いに生かせないことになってしまう。亀岡市観光協会としても、「このような予算で、このようなことがしたいので予算をつけてほしい」といったしっかりとしたものが出てくれば中身が充実してくる。それをさらに充実させるのか、1年だけになるのか、縮小するのかそのようなところを点検しながら次の展開にしていく。常にメニューが変わっていくことも必要だと思うし、時代に応じた観

光業の在り方だと考える。

川の駅・亀岡水辺公園の切り口も教育プログラムということで、市内の旅行業者で取り扱えるようなプログラムを考えられていると思う。地元の旅行業者に早くから提案していただいて、いろいろなメニューの商品を扱えるようにした予算立てが必要だと思う。実際に進めていかなければ分らないと思うが、そのようなことを考えているのか。

<商工観光課長>

今いただいた御意見のようなことを考えている。予算も複雑すぎて分かりづらいところがあると御指摘を受けていたので、全体を再度見直した上で、事業も予算もスクラップ・アンド・ビルドしていこうと考えている。それで必要な予算については、要求させていただく。決して、費用対効果が上がらないような無駄になるような予算要求はしない。その辺りをしっかりと精査して、令和4年度の予算確保に努める。

<木曾委員>

例えば、コスモス園をしているが、亀岡市はどのぐらい予算をかけて、どのぐらいのことをして、どのぐらいの経済効果があったのか検証しなければならない。来園者がこのぐらいあって、赤字にならなかったという報告だけでなく、大阪府や兵庫県から来られたなど、いろいろなデータをしっかりと取りながら、より充実させていただき、必要があれば、それに見合う予算をしっかりと立てていただきたい。何かをやっているが、実行委員会に任せているので何をやっているのか分らない。事業者を入れるのに、実行委員会の顔色を見て、「気に入ってもらえなければ入れない」と言っただけのうわさが出ているようではまずい。もっとオープンに亀岡市全体の観光業を活性化させるための在り方を考えない限りうまくいかないと思う。課長も聞いておられるかもしれないが、その辺りを改善していかなければ駄目だと思う。気に入った事業者だけを入れることは、特定のイベント会社のためのものになってしまう。そのようなことはないと思うが、入れなかった事業者がそのように言っていたので、そのようなことがあるのかと心配している。幅広くいろいろな事業者が入って、もっとにぎわいが生まれるような形にしていかなければならない。うまく仕切っていただくように、予算に見合った形の経済効果があるように、どこから来られているのかニーズを把握できるようにしていただきたいがどうか。

<商工観光課長>

今、旅前・旅中・旅後ということで、旅後も重視されている。特にデジタル化が進んで、そのようなデータも取りやすくなっている時代なので、いろいろなものを活用して今後の戦略につながるような情報収集も踏まえて、データ分析をやっていければと考えている。現状で、かめまる観光レンタサイクルでは、レンタサイクルでどこに行ったかなどが分かるので、一つのバロメーターにはなってくると思う。いろいろな手だてを考えて、そのような情報を使って次へつなげていきたいと思う。

<木曾委員>

最近、コスモス園近辺の道路の混み具合がひどい。特に、土日は国道372号が大渋滞しており、生活道路でもあるので根本的に変えていかなければならない。毎年同じことを繰り返している。う回路を案内するなどの心配りがないと駄目であると思うがどうか。

<産業観光部長>

観光地としては、観光に来ていただくのはありがたいことだが、地元の人にとっても生活に支障がないようにしていかなければならないと考える。渋滞問題は以前からあったので、実行委員会と協議していく。

<藤本委員>

コロナ後にG o T oキャンペーンが復活すると思うが、それを見据えて見どころを点から線へ引っ張っていく。大手旅行会社ができないような亀岡市独自の観光を作り上げていくことはよいことだと思う。市長も亀岡まるごとガーデン・ミュージアム構想を掲げておられ、亀岡市全体を庭と考えて皆さんをお迎えする。また、亀岡まるごとスタジアムということで、亀岡市全体がスタジアムとして機能していると捉えて、町おこししていきたいと考えておられる。三大観光を活用して、湯の花温泉とコスモス園や湯の花温泉と蛍、湯の花温泉とききょうの里などとの連携をうまく企画していただきたい。大きいテーマの戦略として持っておかなければならないことは、亀岡市を日帰り観光の町から、宿泊型の観光地としていき、経済効果をどのように上げていくのかが大事になってくる。湯布院のように、ホテルを建てず地元の宿泊施設を活用して町を活性化していくのか、高山市のように、駅周辺はホテルだらけで、町の中心街の城下町を一つの観光拠点として、朝市を展開していくのか等、しっかりとしたスタンスを亀岡市として持っておかなければならない。三大観光との連携や城下町の整備、無電柱化の整備など20年前からずっと言われているが何も進んでいない。その辺りを整備して、亀岡市全体としてどのような観光の町にしていくのか、どのような特色を出していくのかというような戦略をしっかりとつくっていただきたいと思う。それが見えてくれば、行政は何をしなければならぬのか、亀岡市観光協会はどのような動きをするのかということが明確になってくる。その辺りを整備して、しっかりとした予算づけをして実行していくことが大事であると思うので、コロナ後も引き続いて活性化できるようによろしくお願いします。

<産業観光部長>

新しい形として、日帰り旅行が今まで多かったが、今後は宿泊型になるような戦略を立てていきたいと思う。今回、きっともっと亀岡という制度を使ってナイトコンテンツとして、夜に滞在して見られるような企画を試行的にしている。何とか、夜の亀岡市の行事の中で、宿泊につながるようなことを考えていくべきだと思っている。

<藤本委員>

スタジアムやコスモス園、トロッコ列車に何人来ても、すぐに帰ってしまうので、経済効果になっていない。そこをどのようにして亀岡市の観光経済のアップにつなげていくのかしっかりとやっていただきたいし、土産物の作り方など細かいところまで、戦略を練って推進していただきたい。

<木曾委員>

亀岡市の観光が広がらないのは、補助金などに頼りきりになってしまっているからである。そうではなく、イベントをするにしても、しっかりと自分たちの企画や財源を持ち寄って、行政ができない部分をフォローするということにならない限り、本気になってやることにつながらない。ゼロの状態でもやらなければならないときはやらなければならないし、亀岡市観光協会には、主体的に動く力を持ってもらわなければならない。頼りきって、亀岡市の補助金が当たり前になってしまっているようでは駄目である。知恵と工夫と自分たちの財源を使うことによって、もっと知恵を絞ると思う。湯布院では、観光協会や旅館組合が主体で動いている。行政からの補助金は、最終的に赤字になれば補填してもらえるので、頑張りがいがない。もっと工夫してもらえるような組織づくりをしていかなければならないと思う。

<産業観光部長>

私も、この4月に産業観光部に来て、観光について今まで思っていたイメージと現状は違ったので、皆さんの御意見は大変参考になる。湯布院の話が出たが、湯布院の隣には別府温泉があり、高山市の隣にも下呂温泉がある。亀岡市も京都市の隣にあり、湯の花温泉があるので多くの観光客が来るメリットがあるので利用していきたいと思う。亀岡市観光協会は、確かに数年前とやっていることが変わっておらず、コロナ禍でこの2年は大きな動きができていない。このように御意見をいただいて、こちらでも考えることができたので、亀岡市観光協会や森の京都DMOと協議する中で、いかに観光客を呼べて亀岡市の経済が発展するのか考えていきたい。幸いなことにスタジアムもできて、サンガがJ1に昇格すれば、多くのお客さんが来られることになる。その辺りも経済の発展に寄与すると考えるので、組織体制や事業について考えていく。

<木曾委員>

亀岡市の観光の進み具合が鈍いのは、若い人の意見を取り入れないからである。若い人でも一生懸命やっている子がたくさんいる。そのような人たちの意見をもっと取り入れてほしい。若い人はいろいろな発想を持っているし、いろいろなところとのつながりもあり、SNS等で発信もできる。そのような既存の部分ではなく、費用をかけることなく、コンテンツをたくさん持っている若い人をどんどん入れていただきたいし、若い人たちが商売できるような雰囲気づくりをしていただきたい。そうすれば、いろいろなところがもっと盛り上がっていくと思うがどうか。

<商工観光課長>

先ほど、Harvest Journey Kameokaという組織について、お話をさせていただいたが、御存じか。地元の若い子たちが組織をつくっている団体であり、いかに亀岡市に人を呼ぶか、亀岡市を活性化させるかなどを考えていろいろな活動をしている。その辺りの若い子たちを巻き込んで、地域発信のコンテンツをつくるなどに努めていければと考えている。

亀岡市では、いろいろなコンテンツが点在しており、それらを線で結ぶということは、何十年も前から言われていたが、なかなかできてこなかった。一番の大きな問題は二次交通であると考えている。実質バス・タクシーしかないので、観光客は車で来られる。車で来られたら、渋滞問題や駐車場の問題が出てくる。電車やトロッコ列車で来られれば、移動手段がない。そのような中で、観光庁の予算を使って、観光型Maasとして、利便性を高めるための検証を実施している。来年度以降、交通事業者が「これはいける」と思っただけであればよいのだが、なかなか難しいところもあると考える。そのようなところに予算を投じるのも一つであると考えている。ただ、いろいろな方面から交通事業者にお金が出ているので、委員各位は観光から経費を出すのはおかしいと思われるか。

<木曾委員>

それも一つの案だと考える。やはり、亀岡市で不足している部分を補う形で補助金を使うのは必要であると思う。100%補助するのではなく、事業者についても努力してもらうための工夫が必要であると考えている。利便性・採算性・収益性を考えながら、実証実験としてやってみて、定着を図っていくのもよいと思う。交通事業者と十分協議しながらやっていただきたい。行政が考えるのではなく、亀岡市を訪れた人がどのように考えているのかを把握することが大事である。

<赤坂委員長>

根本的にそれらをまとめて引っ張っていく人がいない。旅行業務の資格を持っている人が絶対必要になってくる。せっかくよいものがたくさんあるので、新しいもの

を発見するようなやり方を変えてくれる人が必要である。その人に、改善してもらうことが大事である。いち早く、亀岡市観光協会に人を入れて、何とかしてもらようにしていただきたい。予算を増やしてもよいので進めていってほしいがどうか。

<産業観光部長>

確かに人材は大変大切になってくる。その中でも、経験や実績がある人に来てもらうように、亀岡市観光協会と話をしているところである。

<小川委員>

いろいろと考えてもらっていることがよく分かった。やはり、専門職の人を入れなければならないと思う。亀岡市の方向性をしっかりと伝えて、亀岡市観光協会にとりまとめていただきたいと思うがどうか。

<産業観光部長>

亀岡市としても、専門的な人を入れていくことが必要であると考えており、亀岡市観光協会と話をしているところである。そのような方向で何とかよい人材を見つけて、来ていただけるように進めていく。

<小川委員>

アフターコロナを見据えてやっていただきたいし、渋滞や公共交通については、まちづくり推進部との連携も必要であると思うのでよろしくお願いします。

<産業観光部長>

今後も関係部署と連携して進めていく。

<小川委員>

商工観光課が全て抱えるのではなく、ネットワークをつくって亀岡市観光協会に渡すのも手だと考えるがどうか。

<商工観光課長>

亀岡市観光協会の考えの中で、各団体とより一層連携を深める中で、情報を収集して次へつなげていきたいと考えているところなので、その辺りに期待している。交通関係については、亀岡市のバス交通は市民主導型の交通となっており、J R 亀岡駅をハブにして路線が組まれている。そのハブを亀岡運動公園に持っていけば、観光に特化したような路線や市民生活にも影響がないのではないかと提案したことがあったが、難しいとの答えだった。交通については、レンタサイクルなどいろいろな形で構築して、次につなげていかなければ、点のままで終わってしまうので、真剣にてこ入れするところだと思う。

<赤坂委員長>

必ずインバウンドが戻って来るので、それに向けての実験をいっぱいできると思うし、お金をつぎ込んでやるのが一番であると思う。そこをやり替えなければ、町の商店街運営になっている。温泉に1回来ればもう来ない。アクセスがよいところがよいに決まっている。亀岡市観光協会には亀岡市で組織を立て直すぐらいの勢いでできれば、商工観光課がここまで大変になることはないと思う。コロナが収束に向かっている今が大チャンスであると思う。

<藤本委員>

もったいないと思うのは、バスの運行に毎年1億円の経費がかかっていることである。路線を見直し、補助タクシーを使うべきである。七谷川の桜や出雲神社にしても行ったら帰ってこられない。コスモス園の駐車場も満車で入れない。せっかくあのような企画をするならば、就農者にスペースを与えて、直売所のようなことをすれば、PR効果があると思う。今の亀岡市観光協会に専門家を入れて、ラフティングやサッカー等があれば、あとは宣伝力である。商工観光課が亀岡市観光協会を誘

導していくことが大事であると思うがどうか。

<産業観光部長>

亀岡市も亀岡市観光協会に全てお任せではなく、亀岡市としての方向性を出していかなければならないし、それを亀岡市観光協会に投げかけて、協議をしていかなければならないと考える。亀岡市があらゆる点において、また、今あるものをどのように使って観光振興に努めるのか大きな使命になってくると思うので、十分に考えていきたいと思う。

<赤坂委員長>

部長の立場なら、亀岡市観光協会に「人を探してきて、人を入れろ」と言えるのではないのか。「この人なら1, 500万円かかる」ということならば「どのぐらいやってくれるのか。やってくれなければ、お金は払わない」と言えるし、そうなれば亀岡市観光協会から「この人ならいけるので補助をお願いしたい」と嘆願するのではないのか。そこで目標が決まるので、予算が決まってくる。「探さなければ、辞めろ」という簡単な話である。部長が言えばよい。年間300万円でプロが来ると思うのか。絶対ない。やはりヘッドハンティングしようと思えば、1, 000万円から支払わなければならない。その中で、人員をカットしてどのぐらい節約できるか。これ以上無理となれば、「3, 000万円のところを3, 500万円出す。その代わり、前年より形・組織をつくれ」と言えるではないか。今、鳥山室長がプロモーション担当としてやっているの、ちょうどよいと思う。本当にお金の使い時である。そこをビシッというのは、産業観光部長しかいないと考える。そこを言っていたら、課長もやりやすくなる。上からきつく意見を言っていたらいいと思うがどうか。

<産業観光部長>

この間いろいろな御意見をいただく中で、亀岡市観光協会とは、いろいろな話をし、亀岡市の希望を伝えている。

<赤坂委員長>

今の亀岡市観光協会のメンバーでは無理であるし、不可能である。鳥山室長にお願いするなど、それ以外に方法はない。5億円の補助金が入れば静かになったではないか。お金が少し入れば、おとなしくなるのが現実である。お金をもらえばそこで終わってしまう。そこからもっと頑張ろうとはならない。自分だけの世界である。なので、鳥山室長に、「ここを何とかしてくれ」とお願いするのが一番だと思わないのか。

<産業観光部長>

そのような手法もあると思うので、今後検討していく。

<菱田委員>

シティプロモーション担当室長が部長と同列でおられるので、横のつながりが大事になってくる。今回シティプロモーション担当室長というポジションができたということは、この意見交換会で皆さんが言っていることを実践することであると思う。戦略を練るということは、そのプロでありながら、亀岡市役所におられて、よそ者の目でこの1年間亀岡市を見て来られたそのような人が、由良部長と同列におられる。まずはそこからやっていただきたい。

また、亀岡市観光協会のでこ入れであるが、よい言い方をすれば、亀岡市観光協会は、行政でできない観光に対する底上げをしてもらえる団体である。ただし、それがマンネリ化してしまうと、このような会議をしなければならないことになる。そこをうまくやるためには、今、鳥山室長がおられることがチャンスであると思う。

その中で、このような予算がいる等、内部で練り上げながら、亀岡市観光協会と協議していき、戦略を練っていくようなことをやっていただきたいと思うがどうか。

<産業観光部長>

鳥山室長とは、連携を取りながら業務を進めているところであるし、博報堂で培われたノウハウ等をいただきながら、相談をしているところである。今後も、いただいた御意見を参考にしながら進めていきたいと考える。

<木曾委員>

亀岡市観光協会に今一番必要なことは、プロデュースする人間である。例えば、USJやディズニーランドでもプロデュースしている人がいるから成り立っているのである。プロデュースがいかに大事になってくるか。そのようなことは、行政ではできないので、プロデュースする人を入れて、専門性を発揮してもらいたい。観光客が来るだけでは駄目である。お金を使ってもらえるコンテンツをつくらなければならない。そのようなプロデュースがどうできるかが大事であると思う。そのことによって亀岡市の経済効果を上げていく。観光客がどんどん来て、日帰りで帰れば、交通渋滞やごみが増えるだけである。コンテンツをしっかりとプロデュースできる人を費用がかかるかもしれないが入れなければならない。200万円ぐらいで、来てくれるわけがない。そのようなことをしなければ、多くの補助金を渡しても効果が表れない。お金ばかりかかってしまい、一部の人だけがイベントをして終わっている。そのようなことを亀岡市観光協会に一度提案していただいて、予算化の中で、我々も支援するので由良部長が率先して起案して、いろいろとやっていただきたい。今まで、課長が言ったことを実践しようと思えば、それが必要であると思うがどうか。

<商工観光課長>

最初の説明の中で、数の観光よりも質の観光という話をしていたが、そのとおりだと私も考えている。いろいろと説明したが、それも専門的な人がいるからこそできるという思いでさせていただいた。旅行業の資格を持っている人が、私は個人的によいと思っているし、商品開発する上で、必要だと感じている。いろいろな形で、本日の御意見を踏まえて、令和4年度の予算編成に取り組んでいくが、当課で希望していても、予算がつかないこともあるので、その辺りは御理解いただきたい。

<産業観光部長>

今までと変えようと思えば、そのような人材を亀岡市観光協会に入れていただきたいという思いを強く持っているので、そのような予算を組み立てていこうと考えている。しかし、予算のことなので、査定や議会もあるが、産業観光部としては、そのような方向で亀岡市観光協会と協議していきたいと思う。よりよく、人を使いながら、新しいことをやっていきたいと思うので、予算審議の際はよろしく願います。

<木曾委員>

亀岡祭などを観光と見なすのか、文化財の支援になるのか、そこをしっかりと分けて、文化財の保護等の予算は教育委員会に全て渡してしまえばよい。観光の事業の中に、山鉾の修理代や運行費用が入っていたりするのではなく、観光事業としてどのようなコンテンツを持つのかということやっていかない限り、予算はつかないと思うがどうか。

<商工観光課長>

歴史文化財課が持つ予算と商工観光課が持つ予算は、しっかり線引きされている。にぎわいづくりに係るイベント的なものは、商工観光課で持ち、それ以外の文化の

保存の継承に係る部分については、歴史文化財課で持っている。

全体の予算については、財政当局からスクラップ・アンド・ビルドで、補助金等の見直しをするように言われているので、その辺りを精査した上で、来年度予算の積算に努めていく。

余談になるが、私の隣に観光振興係長がいるが、今回、議会から亀岡市観光協会に対する御意見をいただいて、一番大きな声で、亀岡市観光協会に意見を言ってくれているのが係長である。一生懸命やってくれているので、その辺りをくんで、できるだけよい方向にいくように予算等を組み立てていきたいと思っている。

<藤本委員>

せっかくこのような内容の話が出ているので、鳥山室長はプロデュースの専門家である。亀岡市観光協会の顧問でもよいので、戦術と戦略をつくりあげるのにもっと入ってもらって、ノウハウを活用していけばよいと思うがどうか。

<産業観光部長>

今までも意見をいただきながら進めているし、本日もそのような御意見をいただいたので、今後も鳥山室長に入っていたりいただけるような形で進めていきたいと思う。

<奥野副委員長>

亀岡市を離れた人が、何とか亀岡市がよくなるようにと願って、ふるさと納税をしていただいているので、その予算をいただけるように要望していくべきであると思うがどうか。

<産業観光部長>

入ってくるふるさと納税も使用の目的を希望して、納税されている部分もあるので、全て好きなように使えるわけではないが、予算要望の際には、希望をしっかりと伝えていく。

<赤坂委員長>

係長が一生懸命頑張ってもらっていることは、よく分かっているし、我々もタッグを組みながら、亀岡市の観光をつくり直そうと来年度から前向きに頑張っていきたいと思う。

今日はよい意見交換会をさせていただいたし、本当に鳥山室長がおられることはポイントなので、うまく活用しながら進めていただきたいと思う。我々も委員会として、しっかり市長に提言書を出していく。

15 : 02

[産業観光部退室]

3 その他

(1) 森林整備・新規就農者に係る市の迅速な対策を求める緊急提言書について

[赤坂委員長提言書 朗読]

<赤坂委員長>

提言書について意見はあるか。

<藤本委員>

森林整備についての「エ」の「新しい人材」といっても分かりにくいので、「(プランナー育成)」と入れたほうがよいのではないかな。

<赤坂委員長>

そちらは、農林振興課のことであるので、亀岡市森林組合のことは「イ」であるので、「組織運営」のあとに、「(プランナー育成)」を入れることとしてよいか。

(全員了)

<菱田委員>

しっかり指導できる人と売り先の確保が必要であると思うので、その辺りを盛り込んでいただきたい。

<赤坂委員長>

農業担い手について「カ」として専任マネージャーの増員を盛り込みたいと思う。

(全員了)

<菱田委員>

農業担い手の「オ」の新規就農のあとに「者」を入れたほうがよい。また、前の「支援」を「制度」にしたほうがよい。

<赤坂委員長>

そのように修正する。

(全員了)

(2) 本市の観光振興推進に係る市の迅速な対策を求める緊急提言書について

[赤坂委員長提言書 朗読]

<赤坂委員長>

提言書について意見はあるか。

<菱田委員>

先ほどの意見交換会で意見が出ていた、鳥山室長に一度委員会に来ていただいて、もう少し提言書を膨らませたほうがよいと思う。鳥山室長と意見交換をしてはどうか。

<赤坂委員長>

皆さんそれでよいか。

<木曾委員>

そのときに、産業観光部にも出席いただきたい。

<赤坂委員長>

時間さえ合えばできると思うが、広報プロモーション課と意見交換はできるのか。事務局どうか。

<事務局主任>

広報プロモーション課との意見交換となると、総務文教常任委員会の所管になるため難しいと考える。

<菱田委員>

事務局の立場から言えば、縦割りなのでそのように言うと思っていたが、先ほど産業観光部長も鳥山室長と連携してやっていきたいと言っておられたので、連携するには、鳥山室長の意見を聞かないと、総務文教常任委員会の所管なので、意見交換できないとなると連携ができなくなる。一度調整いただきたい。

<赤坂委員長>

由良部長から鳥山室長には直接言いづらいと思うので、そのほうがよいと思う。委員会としてどのように進めればよいのか。

<事務局長>

鳥山室長は市の広報の担当であるが、先ほどから議論されているのは、観光のプロデュースだと思うので、役割が違うのではないのか。

<赤坂委員長>

広報でも人脈を持っているからいろいろ聞きたい。

<菱田委員>

委員会が駄目なら、協議会等でできないのか。

<赤坂委員長>

できるように考えてほしいがどうか。

<事務局長>

今すぐに答えは出ないが、できる手法を検討したいと思う。日程的なことで、要望は明日されるが、意見交換はすぐにはできないと思う。

<藤本委員>

由良部長から、鳥山室長に観光戦略を立ててくれとはいづらいと思う。

<木曾委員>

例えば、条例案をつくるときに、所管が重複する場合は合同でやる場合もあるので、総務文教常任委員会と合同で意見交換会を開催することも可能であるとする。

<赤坂委員長>

それはできるのか。

<事務局長>

いろいろなやり方があるので、検討するが、総務文教常任委員会としても急な話になるので、調整が必要になると考える。

<木曾委員>

先ほど課長が、川の駅・亀岡水辺公園の説明の際に、教育プログラムのことも言われたので、それも含めて考えてはどうか。

<赤坂委員長>

総務文教常任委員会と合同で意見交換会を開催して、もう少し熱い提言書をつくりたいと思う。

<事務局長>

いろいろと手法を言っていたが、10月11月と日程が非常に詰まっているので、総務文教常任委員会と合同となると、日程調整がなかなか難しいと思う。産業建設常任委員会協議会の単独として、来ていただけるように調整する。観光に関する提言書については、来年度予算への提言でもあるので、明日に出すということでよいか。

<赤坂委員長>

農林と観光の提言書を明日に出すことでよいか。

(全員了)

(3) 次回の日程について

<赤坂委員長>

今回は、11月18日(木)、午前10時から、委員会を開催するのでよろしくお願ひする。午後からは、サンガスタジアムに行き、イノベーション・フィールド実証実験の現地視察を行うこととする。

散会 ～15:37